

互いに生きる

コロサイの信徒への手紙 4 : 6 (聖書協会共同訳)

いつも、塩味の効いた快い言葉で語りなさい。そうすれば、一人一人にどのように答えるべきか、分かるでしょう。

今週の学びは、家庭や教会における人間関係のあり方を、聖書の教えに基づいて示しています。人々が共に生活し、働くときには、意見の違いや感情の衝突が生じることがあります。また、関係が親しいものであればあるほど、互いに調和して生きることがより重要になります。特に家庭は最も親密な共同体であり、「家族会社」とも言える存在です。家庭を円滑に営むためには、共通の価値観や目的を持ち、互いに協力して自分の役割を果たすことが必要です。この原則は、より大きな家族である教会にも当てはまります。



新約聖書には、家庭生活に関する重要な教えが記されています。パウロは、夫婦関係について、妻は「主にある者として」夫を敬い、夫はキリストが教会を愛してご自身をささげられたように、妻を愛するように教えています。ここには、単なる上下関係ではなく、互いを尊重し支え合う相互的な関係が示されています。健全なクリスチヤンの結婚は、夫婦が共に相談し、よく考えながら決定を下す協力関係によって成り立ちます。このように互いを尊重し、チームとして歩むとき、結婚生活はより幸福なものとなります。

子どももまた家庭の大切な一員です。子どもたちは愛され、尊ばれる存在であることを知る必要があります。そのため、家庭礼拝のような霊的習慣は非常に重要です。幼いころから家の手伝いなどの責任を学びながら、両親の教えと模範によって信仰が育てられていきます。一方で、両親には子どもを怒らせたり失望させたりしないようにする責任もあります。特に父親の信仰的な姿勢は、子どもの将来の信仰生活に大きな影響を与えるとされています。絶対に許されないことですが、もし父親(母親)によって傷つけられた経験があったとしても、神を天の父として知ることは、心の癒やしと回復をもたらします。

また、聖書は家庭だけでなく、仕事上の関係についても教えています。新約時代には奴隷制度という社会制度が存在していましたが、パウロはその中でも、すべての働きは主に対して行うものとして誠実に働くよう教えています。同時に主人には、天に主がおられることを覚え、公平に人を扱うよう求めています。この原則は、現代の職場関係にも適用でき、互いを尊重し、神の前に誠実に働く姿勢を示しています。

さらにパウロは、祈りの重要性を強調しています。祈りは神とのつながりの手段であり、信仰生活の中心です。感謝をもって目を覚まし、忍耐強く祈り続けることが勧められています。パウロ自身も、福音をはっきり語ることができるように祈ってほしいと求めています。祈りは特別な時間だけでなく、日常生活の中でも続けられるものであり、歩くときも働くときも、心を神に向けることができます。

また、クリスチヤンは信仰を持たない人々に対してもうまくふるまう必要があります。私たちの言葉や態度は、周囲の人々に大きな影響を与えます。パウロは、言葉を「恵みに満ち、塩で味つけされたもの」とするよう勧めています。これは、相手にふさわしく、励ましと恵みを与える言葉を語ることを意味します。私たちの親切や忍耐、礼儀正しさは、信仰の真実性を周囲に示す証しとなるのです。

家庭は「地上の小さな天国」となるべき場所です。そこでは愛情が抑えられるのではなく、育まれるべきです。家族一人一人が互いに励まし合い、温和と忍耐をもって接し、低い穏やかな声で語り合うことが大切です。小さな親切や思いやり、感謝の心は家庭の中で育ち、やがて家庭の外へと広がっていきます。このような思いやりに満ちた生活こそが、人生の真の幸福を形づくるのです。